

巻頭言

2007.9月号
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

夏を整理するとき2007

茗溪塾塾長 宇野雅春

史上最高といわれた猛暑の夏、南国のリゾート地のほうが涼しかったという話も、なるほどと思える毎日でした。ソフトボール大会、夏期講習、夏期合宿も、次年度以降もこの暑さが続くようでは、さらに安全のための対策を練っていく必要があります。

にもかかわらずたくさんの生徒が（塾の歴史の中では過去最高）参加してくれたことに深く感謝したいと思います。

生徒にとっても大変な夏の学習ですが、夏にやったことは、受験に必要なレベルを知ることと全ての内容について一通り経験することです。ですからやったことだけで即「成果」が出るわけではありません。9月からの「整理」が成績アップの鍵です。

少しずつでもやり直しをしていきましょう。生徒にとって厳しい夏は、同時に、先生達にとっても厳しい夏です。塾という性格上子供に「努力」を教えるためには、この厳しさは避けられません。特に「合宿」行事になると「厳しさ」はピークになります。

今年は、夜よりも朝を活用しようという方針でしたが、生徒のほうもそれをよく理解してくれて朝6時の補習にもたくさん参加してくれました。8グループに分かれての夏期合宿。閉会式は6つに分けてそれぞれ思い入れの強いものになりました。その中の1つ、中3合宿の閉会式の時、和やかに式が進み、生徒たちの熱気が盛り上がりつつある中で、挨拶に立ったある先生が生徒に問いかけました。

「合宿に来るのを、正直いやだった人」...ばらばらと手が上がりました。

「やっぱり...いやいや来た子もいるんだな...」、当たり前のことなのにちょっとがっかりな気配があたりに流れました。その先生はさらに質問を続けました。

「合宿に来て良かったと思う人。」会場を埋め尽くした140名の全ての生徒が一斉にその手を上げました。迷いの無い確信に満ちた手の上げ方だったので思わずその先生だけでなく全ての先生の胸が熱くなりました。話している先生が思わず詰まってしまうほど。

過去最高の参加の中で、工夫に工夫を重ねてやってきただけに、どの先生もハードスケジュールの中にいました。自問自答しながらの苦しい合宿だったと思います。だからこそ、この生徒達の反応は嬉しいものでした。そこから先は、登場する先生のほとんどが、声を詰まらせました。「素晴らしかったのは、君たち生徒のほうです。」と誰もが言いたかったはずで、他の閉会式でもこんな場面が続きました。苦しかったのは本当は先生たち自身です。でも、生徒の頑張り、それを支えてくれているのです。

「勉強」がとても大事な時代になってきているのに、子供たちは今そのことを実感できない時代に生きています。適当にやりたいようにやっていけば、何とか生活が成り立つような「幻想」を抱かせるたくさんの要素がありすぎです。「合宿」はそこに切り込む大事な夏の行事になりつつあります。

9月、夏は終わりました。2学期が始まります。「夏を整理する」ことが成績アップのポイントになります。学習計画をきちんと立ててまず学習時間を確保しましょう。小6、中3、高3の受験学年は、受験勉強が「優先順位」のトップになっていることが、最低条件です。受験校の過去問演習も始まります。悔いを残さないように頑張ってください。